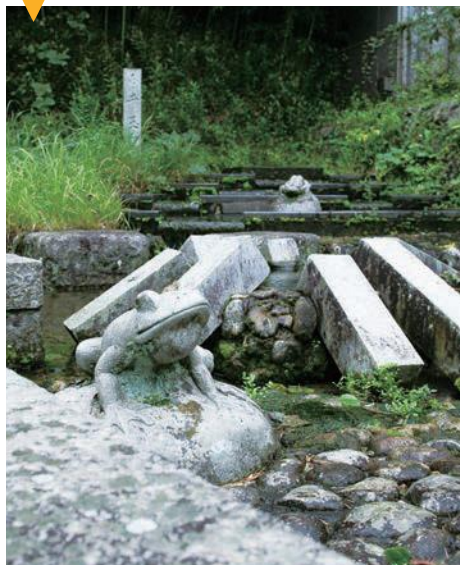




蛙塚

かわずづか



私の
お気に入りの
あごひげ蛙



井手の蛙

鴨長明の「無名抄」には、『井手の蛙は大きさが普通の蛙と同じくらいであるが、色は黒くさほど飛び歩かずいつも水の中にいて、夜が更けるとその泣き声は清らかで、人の心をしみじみとさせる』と記されています。

玉川保育園の裏手にある蛙塚の碑は、橘諸兄が三本足の蛙を埋めた所と伝えられ、同じ敷地にある明和5年(1768)の石碑に諸兄と蛙の関係が記されています。蛙塚は明治6年(1873)に廃寺になった玉井寺の境内にありましたが、小学校(現在の玉川保育園)の建設に伴い、現在の場所に移したのが今の蛙塚です。その場所に足を踏み入ると、他とは違う澄んだ空気を感じられます。この場所には三匹の蛙の像があり、それぞれの形が違います。また流れる水は澄み美しい。蛙を詠んだ五首の和歌を探してみるのも一案です。流れる水の音がBGMとして響いており、心に安らぎを感じます。町民の憩いの場となっているのでしょう。

この
看板が
目印!



水のはじまり

きれいな水があるところにしか生えない苔があるよ。

JR玉水駅から
徒歩15分、
石垣地区の安養寺の
近くにあるよ

ろっかくいど

六角井戸

井戸
興味は
ありますか？

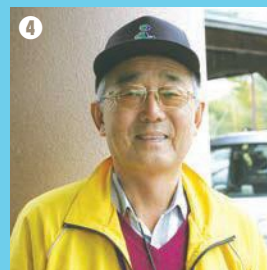
井戸は地下水を汲み上げるためにあり、円形をイメージするのは。しかし、ここは違う。なんと井戸の形が六角形です。

古地図から聖武天皇の玉井頓宮にあったと伝えられます。

覗くと、底が見えない深さで、引き込まれそうになります。

ぜひ、他とは違った形をした「六角井戸」を訪れてみてほしい。

フタを開けて、
中をのぞくことも
できるよ



井手の あれこれ

みなさんも名水のまち
散策してみませんか



井手に、
あいデ〜



- ① 水のきれいなところに生息するサワガニも出現！ ② 宮本さんに井手町の魅力をお伺いしました
③ 名水百選「玉川」は六玉川の一つです ④ 井手の歴史を教えてくださいました岩田さん ⑤ ふるさとボランティアガイドの河本さん ⑥ 地域の方の憩いの場。縁側でゆっくりしませんか〜 ⑦ 取材に来てくださった京都新聞の廣瀬さん ⑧ まちの至るところに仲間が！（カエル） ⑨ ブクブク泡がかわいい消火栓
⑩ 井手のいいところ探してきました！ ⑪ 橋の上からの一枚。昔も今も変わらない美しい井手の風景

道には、
 シリーズの
 連続。



Ideの冊子
 が
 出来上がるまで
 ～制作風景より～

何方癡見!?

攝影中……。

ガミんぼん

完成!!

調査の合間に
パチリ☆

井手町の達人に聞く

井手町ふるさとガイドボランティア
(左から)
河本保さん、宮本敏雪さん、岩田剛さん

縄文弥生からの歴史があり、水が豊富な良い場所です。でも新しく住まれる方が少ないし、人口もどんどん減っています。私達はここで生まれたから、住めば都って感じですけど(笑)。でも、意外と便利で京都駅から30分かかるくらいです。土地も広く、大きい家も建てられます。

井手町さくらまつりは、玉川の桜のトンネルを目当てに毎年7~8万人が来られます。私達も何かしたいと思い、一昨年から水車を回しています。去年は1000人の方が訪れ、新聞の取材もありました。これからは、水車を利用して発電をしたいと思っています。

A photograph of a traditional wooden water wheel (watermill) situated in a lush, green forest stream. The wheel is made of dark wood and has several buckets or paddles attached to its circumference. Water is flowing over the wheel, creating a small waterfall effect. The surrounding area is filled with dense foliage and trees, suggesting a natural, rural setting.

お客様が来ても案内をすることがなかったので、2001年11月26日に宮本さんら4人で立ち上げました。今では、年間に約1000人の方を案内しています。さくらまつりは、あまりに人が多くて、ガイドが出来ないのが現状です。若い人に協力してもらいたいな。

地元の人は近すぎて井手の良さを知らない。当たり前になっているんですね。だから、第三者的な視点が必要だと思っています。

それが少ないんですね(笑)。だから、地元の食材を使った小町弁当を私達でつくったんですよ。今日持ってきたらよかったな。みんな喜んでくれたのにね。

Ide

*To go around
the valuable water
in Ide.*



編集・発行

Ide 編集部

京都産業大学 現代社会学部 現代社会学科

江見彩香 大澤穂高 重兼加奈

菅原大輔 林田悠花 原田廉也

協力

井手町

井手町ふるさとガイドボランティア

宮本敏雪 岩田 剛 河本 保

井手町カジカエル保護友の会

小川俊雄

井手町教育委員会

茨木敏仁

立正大学

河野 忠

京都産業大学

大西辰彦 鈴木康久

デザイン

KOTO DESIGN INC.

山本剛史 三輪悠介

この冊子は学生と教員のコラが活動で作成しました。

© 2017 京都産業大学 現代社会学部 Printed in Japan

本書の無断複写は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。

